令和３年度第２回岡山市総合教育会議

日時：令和３年11月22日（月）

場所：市庁舎　第３会議室

午後３時30分　開会

○司会　予定の時間が参っておりますので、ただいまから令和３年度第２回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は全員の方のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望があった場合は、入室を許可してもよろしいでしょうか。

○市長　特段問題ないと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　では、お願いいたします。

○司会　それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしくお願いいたします。

○市長　それでは、次第に沿って議事を進めます。

本日は、「全国学力・学習状況調査」及び「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果分析等について報告をしていただきまして、それらを踏まえて今後の課題や取組の方向性などについて議論していきたいと思います。

なお、今回はベネッセコーポレーションの西島さんと長谷川さんにご出席をいただいております。

それでは、議事を進めます。

まず、資料１について、ベネッセコーポレーションから説明をお願いいたします。

○西島　失礼いたします。ベネッセコーポレーションの西島と申します。

本日は、私とそれから以前、数年前ですが、文科省の汎用的な資質・能力の測定の事業がありまして、弊社が受託をしておりました、その受託業務の代表をしておりました長谷川と２名で参っております。どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の資料１という横型のとじ物の資料のほうを用いまして、約15分でご説明を申し上げたいと存じます。

めくっていただきまして、二つの枠がありますが、前半は教科調査に関して、後半は質

問紙に関してということでご報告申し上げます。

まず、全体概要ですけれども、正答率それから無解答率、このあたりの全国との比較の表をつけております。ただ、分かりにくいことに、全国は小数点第１位までで自治体の数値は整数で公表されておりますので、ここでの差は出てきてしまっておりますが、もうほとんど差がないというふうにご覧をいただけたらと思っております。小学校の国語・算数の平均正答率、無解答率、中学校も同様にもう0.幾つの差でしか、もう整数との比較ということになってしまいますので、ほぼ全体として差がないということでございます。この後、教科ごと、それから領域ごと、細かく少し見ていきながら、差があるところはどういうところかをご覧いただければというふうに存じます。

それに先立ちまして、４ページのほうですが、こちらは大綱のほうで書かれております指標として、正答率の全国比を１以上にするという目標がございました。その結果としては、小学校に関してはプラスになっているという状況、中学校に関しては若干ですけれどもマイナスになっているという状況でございますが、もうほぼ１に等しいというぐらいの数字でございます。

また、無解答率、これは数年前までは、かなり無解答率が全国に比べて高く、どうしたらいいのかというふうなお話もありましたが、もうかなり徐々に減ってきておりまして、特に中学校のほうは今年度については1.1ということで、ほぼ変わらない。若干まだ全国よりも多いですけれども、無解答率も下がってきているということで、とてもいい状況になってきているというふうに存じます。新しい学習指導要領での評価の一つのポイントとして、粘り強さというものも掲げられております。この粘り強く、しっかり最後まで解くという力も養われているなというふうに拝見をしているところでございます。

続きまして、国語以下、教科の話になってきますが、ポイントは最初に申し上げておきますと、知識・技能の定着はものすごくよくできています。一方で、理由を述べるですとか概念をしっかり説明するですとか、そういった知識・技能を使って考えることについては少し弱いというのが全体的な方向であり、実はこれは３月につくられております大綱の中に児童・生徒に関する課題ということで既に挙げられていることが、まさに数字で出てきたというふうな状況かと思っております。きちんと状況を把握されているということがよく分かるところでございます。

細かいところは、なかなか時間の関係で扱えませんが、この５ページの小学校の国語のところ、プラスになっているのが短答式というのが下から２行目にありますが、こちらは

漢字の問題が３問でございます。非常に高い数字です。一方で、マイナスが大きいのが書くことのところの２問がありますが、これの中身を見ていただきますと、次のページ、６ページを開いていただきまして、選択肢が４つ下にありますけれども、最後の段落に書くのか、最初と最後の段落に書くのかという構成を考えさせつつ、それはなぜそういうふうなことにしているのかという意図、言い換えれば理由、なぜそうしているかという理由を考えさせるという問題なんですが、類型４という、星をつけている四つ目の選択肢が全国に比べると、誤った選択肢なんですが、選んだ方が多いという状況で、構成は理解できているんですが、なぜそうしたのかというのが理解できてないというふうな状況で、やはり理由を捉えるというところに課題があるということが言えると思います。

また、７ページのほうも同様に反対する理由が書けていないという４番、５番の解答類型が全国に比べて多いという状況がありまして、やはり理由というところが弱いと。理由の問題を選んで、こうやってもってきたわけではなく、マイナスが大きいところを見ていくと、やはり理由がそこに絡んでいるということが言えるかと思います。

次、算数でございますが、８ページになります。

これも全体で見ると、そう大きな差はないんですけれども、図形の問題が全国に比べて１ポイントプラスになっておりましたので、どんな問題かなということで見てみますと、それが次の９ページの問題でございます。

三角形の面積に関する問題で、２の(1)、下の図では一番左の図、直角三角形の面積は非常に高い正答率になっております。ただ、その直角三角形を２つ組み合わせると、全国よりもマイナスになると。さらに、四角形になっていく、あるいは直角三角形ではなく二等辺三角形になっていくと、それもマイナスになってしまうということで、ちなみにですが、この(3)の平行四辺形の面積に展開していくものについては、左下に吹き出しを書いておりますが、この平行四辺形の面積が65平方センチメートルであるというふうな解答類型が全国に比べて非常に多かったです。

右上の三角形、５センチの底辺と高さが６センチですので、この計算が底辺掛ける斜辺の長さの6.5で計算をしてしまっているということで、直角三角形ならすぐに答えが出せる、すごく高い正答率なんですが、それが二等辺三角形になると、底辺掛ける高さという概念がうまく定着していないということから、こんなことになっているのかなというふうに思います。ですので、概念理解といいますか、直角三角形で直角があるから分かるではなく、三角形の面積とは何ぞやというところの理解をもう少し深めるということが必要な

のかなというふうに思います。

続いて、中学校のほうです。

こちらも傾向としては同様で、10ページ、国語のページがございますが、正答率が高い上から五つ目のところは、これは敬語表現に関する問題です。それについては、知識・技能については非常に高いですが、一番下の記述式はマイナスになっているということで、これを具体的に見ていきますと11ページのところにありますように、やはり理由を具体的に書きなさいというところがうまく捉え切れていなかったと。理由がバツというところが、３番の類型が多いというような状況にあります。

次に、数学、12ページでございますが、こちらでは数学的な技能というところが高く出ております。

その問題は13ページのほうに幾つか問題を上げておりますが、上の３つ、計算問題とそれから方程式をつくる問題と中央値を求める問題ということで、こういった基礎的な知識・技能に関しては非常に高い正答率になっております。一方で、個々の問題で見たときに正答率が全国に比べて低かったのが、次の２つです。13ページの下の段２つのもので、４番は関数の意味をちゃんと理解してるかという概念理解、先ほど三角形の面積に関する理解、その概念の理解と非常に近いところがあるかと思います。なぜそうなっているのかということをちゃんと説明できるかどうかです。それと、あと６の(2)で理由を説明するということがやはり弱いということで、６の(2)の問題については、14ページのほうに書かせていただいております。

理由をちゃんと添えて、だからこうなるということをちゃんと書けていない３番目の類型が多いと。これは準正答ですので正答には加わってはいるんですけれども、残念ながら、だから、の部分が書けていない答案が多かったということが言えます。やはり全体を通して理由説明、それから概念理解というのも、なぜそうなっているのか、三角形の面積をなぜそう考えるのかですとか、関数はなぜそう考えるのかという、なぜへの問いの答えがなかなか出てきていないというのが全体を通じた課題といいますか、これから伸びていくところになるかと思います。一方で、知識・技能の定着は非常によくできているという状況だというふうに拝見をいたしました。

では続きまして、質問紙のほうになります。

こちらのほうは16ページに少し書いておりますけれども、肯定的な回答の変化、あるいは肯定的な回答の全国との比較ということで、特に学校質問紙は変化が大きい、差が大き

いところが多かったので、10％以上の質問について、それから児童・生徒質問紙は５％以上の差があった質問について取上げをしております。

まず、小学校の学校質問紙、17ページになります。

これはコミュニティ・スクールの取組、あるいは岡山型一貫教育の取組の中で、従来から地域連携、小・中連携は非常に全国に比べて高い値を示しておりましたが、残念ながらコロナの影響で、この１年、これは昨年度の状況をご覧になっている数字になりますが、なかなか活動ができなかったということがあるかと思います。右から３列目の21－19というところはかなり下がってきておりますが、それでも一番左の数字の列である2021、全国との比較でいえば、非常に高い値を示して、これまでどおり、しっかりいい連携をされているなというふうに拝見をしました。

下の３つ、指導内容、授業研究、このあたりは全国でもなかなかできていないんですが、課題解決ですとか、先生方の研修はしゃべりながらやらざるを得ないといいますか、そういったところに関しては、全国も含めて、なかなか動けなかった１年だったなというふうに拝見をしております。

真ん中の指導内容（言語活動）、マイナス13.8ということで、これは過年度の比較はないんですけれども、これ、調べたことや考えたことを書くということは、なかなか岡山市の小学校様ではやってらっしゃらないのではないかと。感想文ではないということが多分一つのポイントで、私はこう思いましたではなくて、調べたことをまとめたり、そこから主語が私ではない、論文とまでは言いませんが、何がどうだという事実をしっかり書くですとか、事実を書くには根拠が必要だと。つまりさっきの理由の話とつながってまいりますが、そういった論文的なもの、小学校なので論文ではないですが、そういったものをちゃんと書かせるというふうな取組が少ないんだなというふうに拝見をいたしました。

次のページ、18ページですけれども、こちらはコロナの影響がどうだったかということを問う質問紙がありまして、これはもう今年だけのことですので、あえて取り上げる必要もなかったかもしれませんが、驚きの数字でございましたので、せっかくですので、掲載をさせていただきました。

昨年の２月の末に一斉休校という話になり、そこから３月から休校を４月にかけて全国で行われたわけですけれども、そこで特筆すべきなのは、岡山市様は市町村教育委員会が作成した教材を使っているという学校さんが小学校で100％でした。それだけ充実した教材を素早く提供されたというのは、ほかにないということだと思います。この差、全国と

の差が48.6％ということでものすごい差がありますので、あの緊急時のときに教育委員会を挙げて、あるいは教育研究研修センターを挙げて、しっかりいい対応をされたんだなというふうに見ております。

それから、19ページですが、今度は児童質問紙になります。

児童質問紙のマイナスが５％以上のものをこちらに並べております。やはり一番大きかったのは地域行事ですとか学校の中での体験活動ですとか、そういったものができていないということから、社会との関わり、それから言語活動、あるいはそういったものをベースに本来であれば涵養されていく自己肯定感や自己効力感というものを発揮する場がなかなかなかったというのが、昨年度の１年間だったんだろうなというふうに思います。これを新しい社会の在り方の中で、どういうふうに体験をプロデュースしていくのかというのがこれからの課題かというふうに思います。

小学校は以上になります。

続いて、中学校ですが、中学校のほうは、まず小・中連携、地域連携のあたりは昨年度よりは低い数字になってしまいましたが、全国に比べたら高い数字になっています。それから、指導内容の研究に関しては、もう教科ごとに様々ですけれども、全体的には前年度よりもよくなっているものが多いというふうに言えるかと思います。話合いの活動ですとか、生徒が考える、意思決定をする、課題を設定する、そういった活動が非常に高まっておりますし、国語の補充的な学習というのも前年に比べると非常に高いですし、全国よりも高くなっているということが言えます。

ただ、課題としては、本やインターネット、図書館資料などの活用について、あるいは数学においての実生活の事象との関連というあたりは、全国に比べると低い状況にあります。インターネットに関しては、１人１台の整備が済んでいるところだと思いますので、これから高まっていくというふうに思っております。

それから、21ページのところですが、こちらは同じく学校質問紙で、差が大きかった、変化が大きかったところになります。

最初にあります教員連携組織力というところが非常に全国に比べて低い状況ですが、これは校長先生がご自身の学校について考える、ご自身のことについて考えるというふうな質問紙になっておりますので、課題意識がここにあるということだと思います。

１ページ飛びますが、次のページに行っていただきまして、22ページ、これは校長先生がご自身が最も学びたいのは何ですかというふうに問うた質問になっています。

小学校・中学校同じ質問なんですが、特徴は特に中学校のこの茶色いところ、教職員へのフィードバック、あるいは教職員同士が協力し合う職場環境のつくり方、こういったところにものすごく強い課題意識をおもちであるということ。これは全国の数字に比べて非常に大きな違いがありますので、恐らく教育政策として教育委員会様も校長会様もここを頑張ろうというふうに同じ方向を向くような発信をされたり、あるいは活動をされたりということをされているからこそ、こうなっているんだろうなというふうに思います。これは一丸となってやっていこうというふうな思いの表れではないかと感じております。

戻りまして、21ページの指導計画のところ、教科を超えた横断的な視点での教育目標の在り方、達成をしていこうというふうな動き、こういったものもプラスになっておりますし、一番下の独自の学力調査の活用ということも全国に比べても非常に高いというところで、コロナの影響はありますし、校長先生の問題意識というところはありますが、全体としては今いい方向に行っているなというふうに見ております。

その結果が出ているのが23ページです。

学校質問紙は、校長先生のご自身の問題意識ですごく大きく変化があると思いますが、生徒の反応は素直なものだと思います。生徒の数字を見てみますと、大きくマイナスになったものはなく、21－19のところがいずれもプラスのものしかなかった。５％以上の差があるのはマイナスがなくプラスしかないという状況で、様々な面でプラスになっているというところが言えます。学習時間、それから探究的な授業の在り方、社会との関わり、言語活動、こういった新しい学習指導要領が目指すところに沿った授業改善、授業改革ということが行われているということが拝見できます。

最後に、24、25ページは、大綱に掲げていらっしゃいます指標に関しての検証ということです。

25ページのほうに３つあります。

一つ目は、情報収集をして課題を考えて発表するというふうなところですが、中学校のほうで本当に大きな改善がなされているところです。小学校も前年に比べたらプラスという状況です。

二つ目は、実は質問紙の文言が変わってしまいましたので、そのまま比較ができないので過去との比較はありませんが、大体全国と同じような状況というところです。

三つ目に関しては、小学校は先ほどありましたように体験あるいは地域活動というのが減ってしまってますので、こういった項目も下がってしまっているかなと。一方で、中学

校はプラスになっているというふうな状況にあります。

駆け足になってしまいましたが、以上でご報告を終了いたします。ありがとうございます。

○市長　どうもありがとうございました。

続きまして、資料２について、教育長からお願いいたします。

○教育長　今日はありがとうございます。岡山市教育大綱が目指す子どもの育成に向けた取組状況等について、学力や問題行動等の全国調査の結果を踏まえて説明をいたします。

お配りしております資料２をご覧ください。

まず、現状でございますが、現状では５つの力、これは「活用力」、「表現力」、「向上心」、「社会性」、「人権尊重の精神」、この５つの力の基礎としての２つの目標の現状値と育む５つの力を測る指標の現状値について見ております。

全国学力・学習状況調査の結果からは、偏差値が50となり、全国平均レベル以上の学力が身につき、記述式問題の正答率の対全国比が少しずつ上昇しているという状況が分かりました。また、問題行動等の調査からは、新規不登校児童・生徒の出現率は全国平均を下回ってはおりますが、年々高くなっているという状況であり、不登校の要因のうち学校に係る状況では、友人関係や学業の不振が多くなっているということが分かりました。

続いて、成果・課題に参ります。

調査結果から明らかになった成果は、児童・生徒の「活用力」、「表現力」が向上しているということであります。これまで学校の校内研修に指導主事が参加し、授業改善に向けた指導助言を行うという取組をしており、これによって授業改善が進み、児童・生徒が議論し合う活動を取り入れた授業が増加してきたことが影響していると考えております。

一方、この調査結果から明らかになった課題としては、先ほどのベネッセからの教科ごとの分析の説明の中にあったとおり、自分の考えを表現したり理由を説明したりする力が不十分だということであります。それらに焦点を当てた「活用力」、「表現力」の育成が必要となっております。また、不登校の未然防止としまして、より良い友人関係を築くための「社会性」また「人権尊重の精神」の育成も必要となっております。

最後、今後の取組でありますが、今後の取組としては、一つ目は児童・生徒が議論し合う活動の質の向上であります。教育委員会は「授業改善資料（授業これからは！）」の活用促進を行うことで、また学校では授業の中で児童・生徒につけたい力を明確化・具体化した指導を行うようにします。

二つ目は、個に応じた指導の推進であります。学力調査と質問紙調査の結果を活用し、学習指導と生徒指導の両面から児童・生徒を理解することで、個別最適化された指導が可能になると考えております。この個別最適化というのは、これから進めていく取組の本当にキーワードになる言葉ではないかなと考えております。

学校では、学力調査と質問紙調査の結果を活用することで、例えば学習の定着状況を把握した上で指導を行うことにより「活用力」の育成を、また記述式問題等のつまずきを踏まえた指導を行うことで「表現力」の育成を、それから自己肯定感や自己有用感を把握し、児童・生徒一人一人の課題に応じた支援を行うことで「向上心」の育成を、それから個人・集団の特性の理解を踏まえた、より良い人間関係につながる指導を行うことで「社会性」の育成を、最後にいじめの芽や差別の根を見逃さない指導を行うことで「人権尊重の精神」の育成をと思っております。このように５つの力を確実に育むことができればというふうに考えております。

引き続き「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子どもの育成」に向けて取り組んでまいります。

以上でございます。

○市長　ありがとうございました。

それでは、委員の皆さん、校長会の皆さんからご意見をいただく前に、今のベネッセコーポレーションから、また教育長からお話をいただいた内容についてご質問があれば、そこから入らせていただこうかと思うんですけど、どうでしょうか。

ちょっと分かりにくいとか、どういう意味なんだということ等、何か質問があれば。

では、私から１点お聞きしたいんですけども、この理由が書けない、これが顕著に出ているような気がするんですが、これは小学校及び中学校の校長さん方、この理由というのは、今、教育長がそういった育成を考えていかなければならないということはおっしゃったんですが、なぜ理由が書けないか。これも理由なんですけど、どう思われるか。子どもたちがこの理由が言えない、理由が書けない、そういったことに関して、その原因って何なんだというところで、感じるところがあれば。結構これは重要な点だと思うんですけど、この発言のバックグラウンドみたいなものが分かって言っているのか、言っていないのか、そういったところ、ここは相当気になるので、まずは小学校長会の山本さんからコメントをお願いできますか。

○山本小学校長会長　失礼します。今のご質問に、私が全ての小学校のことが把握できて

るかというと、そうでもないところがありますので、幾らか恐らくこうであろうというふうなところでのお話になるかと思います。

学力向上ということで、ずっと取り組んできたわけです。授業改善を図りながらというところがあるんですけれども、一番手をつけやすかったというところは基礎的な力を身につけるということで、これはいろんな方策が取れました。家庭学習の充実に向けて学校で働きかけるということ、それから朝学習ということで非常に短い時間であっても、計算であるとか漢字であるとかということについては非常に取り組ませやすかったということ、打つ手が様々あって、ここまで来ています。

そして、一番難しいなと思うのが、課題に向けてどのように自分が学習を進め、最終的にどのような結論にたどり着いたのかというストーリーで学ぶといったことについては、なかなか一朝一夕には進まないところがあったかなというふうに思います。授業づくりについて一番やっぱりそこが難しい。子どもの課題にして子どもが主体的に取り組んでいくということをどう仕組むのかというところだろうと思います。全ての学校がそうとは言いませんけれども、そういったところに力を入れている学校も多いのではないかなというふうには思います。

一つ厳しかったなと私自身が思っているのは、私は学校でもそういう授業づくりを進めてきて、子どもたちにしっかり理由を語らせたり、根拠は何かを問うてお互いに話し合わせたりということをずっと続けてきたわけなんですけれども、実は昨年以来、そういったことが非常にやりにくい状況にはなっていました。討論をするとか、あることについてグループで話し合うとかということを控えながら進めていかないといけないという状況がありましたので、教員の側に立つと、じゃあどうやってその力を育てようかというところは、かなり苦しんだところかなというふうに思っています。次第にそのあたりのノウハウがつくり上げられてきたので、今の状況としては、そういった方向に向けているのかなというふうには思っています。ただ、一番そこが授業づくりの上では難しく、教員が力量を高めていかないといけないところではないかなとも感じています。

○市長　それでは、三木さん、お願いいたします。

○三木中学校長会長　中学校も今、山本校長先生が言われたのと基本的には同じかなとは思うんですが、私はもう一つ大きな観点からいきますと、今の子どもたちがずっと生まれてから育っていく中で、あまりこれはなぜなんだろうとか、どうしてなんだろうとか、そういった環境の中で育っていないのかなというふうなところをまず一番に感じるところで

す。この仕組みがどうなっているのかなとか、そういったことに疑問をもつような、そういったものが抜けている部分があるのかなと。スイッチ一つ押せば何でもできると。なぜできるのかというところまで深く思わない。

それから、もちろん小さいときから子どもたちはいろんな疑問はもつわけですけれども、その疑問に周りの大人たちがどう答えていくのかというふうな部分で、岡山市でも教育研究研修センターに昔、「なぜ　どうして」という冊子があったんですけれども、子どもたちの素朴な疑問に大人がどう答えるのかというふうな部分で、そこの対応の中で子どもたちはさらに、いや、これはこういうことなのか、どうなのか、さらに興味をもつというふうな、そういった大人と子どもの接し方のスピードが速くなっているといいますか、そういったところも私は大きなところかなというふうに感じています。

それからもう一つは、実際にこんなことを言ってはならないのですけれども、50分の授業の中で、まず基本を教えていって、そこからさらに深めていくというところが、なかなか成立させていくのが、まだまだ課題として難しいものがあるのかなというふうなこと、今日も改めてこういったご質問をいただいて感じているところです。

○市長　教育長、教育委員会の方、今の点で何かありますか。

○教育長　山本校長がコロナの中でなかなか難しい、話し合う場というか、そういう作業、活動をつくるのが難しいというのを学校訪問をしていても、それは非常に感じました。結局、先生に向いてずっと授業をしていく中で、学級全体の中で１人が発言するというのは非常に子どもにとっては勇気が要ることです、それが好きな子もいますが。したがって、小学校でも中学校でもグループで少人数で話合いをして、そこではわりと活発な意見を出しているんですが、そこの部分がなかなかコロナ禍で難しかったというのはあるんではないかなというふうに思っています。だから、だんだんコロナが明けてくれば、そういったところにはしっかり力を入れていかないといけないなということも思います。

○市長　ありがとうございました。

私も意見はあるんですが、それは後ほどお話しさせていただくとして、それぞれの委員の皆さん方から、教育長の発言に対しましてご意見をいただければと思います。

まずは、妹尾さんから、よろしいでしょうか。

○妹尾教育委員　どうもありがとうございます。全然考えがまとまっていなくて、私の限られた体験の中からの素人談義的なことになるんですけれども、この理由づけというのが、私自身が小中高と受けてきた教育の中でも体験的に学ぶというのが特に我々の時代は

なくて、もう基本的には知識を教えてもらってというところに終始してたところがあったのかなと思っていまして、大学に入って法律の勉強をする中で初めてリーズニングということを勉強して、日本人って、あまり、ほぼ同質的な人間の関係性の中で直感的なやり取りしかしてないので、一つ一つロジックをたどって理由をつけて自分の主張というのを相手に伝えるという経験がもう圧倒的に不足してるんですね。

したがって、だから文章も書けないんですね。そこからの訓練ということを我々はして、ああ、こういうことなんだなということを初めて理解するわけなんですけれども、今、教育もすごく変わってきていて、そのあたりが小学校・中学校、義務教育でもされるようになったということなんだろうと思うんですけれども、ただやっぱり難しいと思うんですよね。日々の教育の中で、特に今はコロナ禍で、結局コミュニケーションが一つの対応だと思うので、そこがなかなか難しいんだろうなというふうには思います。

この原因が、そもそもさっきの仕組みの理解ができていないことによるものなのか、それとも表現力の問題として自分の考えを筋道立てて伝えるというスキルの問題なのか、そこの両方の問題が相まって、こういう結果になっているんでしょうけれども、何かよい処方箋があるかどうかというのは、私には、ごめんなさい、分からないので、感想めいたことで申し訳ないんですけれども。

以上です。

〇市長　では、河内さん、お願いします。今理由が書けないというだけじゃなくて、広くお二人からお話をいただいたこと全般で何でも結構でございますので、お願いいたします。

〇河内教育委員　失礼します。私もさっき市長さんがおっしゃった理由が書けないというところが、あらかじめ資料をいただいて見せていただいた中で一番課題に感じたところだったんです。私なりにどうしてかなと理由を考えたんですが、理由が書けないというのは、そもそも課題解決学習というか、探究的な学習というのが、まだまだ十分ではないと、授業スタイルがというふうに思ったんですね。

その際、書く活動というのをどれぐらい重視しているか。そこが一番大きなネックなんじゃないかなと。疑問に思ったら疑問に思ったことを書く。それから、自分の考えをそれに対して書く、こうなんじゃないかと。それはこうだからという必ず理由づけがあって初めて説得できる文になるわけで、それを書くという訓練というか、学習。それから、友達の意見や学んだことを基に分かったことを書く。そして、今日の授業を振り返って、どう

いうことが大切だったかということを書くという、書く活動というのをして初めて探究的な学習というのが、授業というのが意味をもってくる、力になっていくというふうに思ったんです。

そういう意味からいうと、資料２で今後の取組で議論し合う活動の質の向上というふうなのがあるんですけれども、議論し合う活動の質の向上を図るには、やはり書く活動をしっかり取り入れて力をつけなきゃいけないんじゃないかなというふうに思いました。子どもは書く活動に慣れてくると、すごく短時間でまとめることができるし、考えを表現することができるし、それはもう低学年であっても、すごく伸びていくところだと思うんですね。そこを大事にしなきゃいけないんじゃないかなと私は思いました。

それから、もう一ついいですか。先ほど質問紙調査で、小学校の授業カテゴリーで、専門性を高めるために校外の研究会等に参加しているかとか、校内外の研修に参加して自分の授業に反映させているかとか、それから中学校の教員連携組織力とかが非常に課題が多く出されているというのがあって、それぞれ課題として意識しているからこそ、そういうふうな課題として表れているんだというふうなご説明をいただいたんですが、やはりここは課題ではないかなと。そういう課題意識を校長先生方がもっていらっしゃるということは、やはり実態として課題が大きいんじゃないかなというふうに思いました。

コロナの影響で外に出られないとか、なかなか研修に行けないとかというのは、これは全国共通のことで、教員が育っていく上では、先輩の教員や若い教員や、いろんな人がいろんな意見を闘わせたり、それから先輩から尋ねて聞いて学ぶというか、学ぶ（まねぶ）というか、そういうふうな切磋琢磨をしながら教師の力を高めていくわけで、ここが課題のままで終わらないように何とかしていかなきゃいけないのかなと。そのあたりが二つ目に感じたところです。

以上です。

○市長　二つ目の問題について私もそのように感じますけれども、校長会のお二人、山本さんと三木さん、河内さんの質問というか、問題意識についてのコメントをいただけますか。

○山本小学校長会長　教員の研修というところですかね。確かにおっしゃるとおり、そういった研修に向けてというところは参加しにくいという状況はあったように思います。そして、管理する側も必要最小限で何とかというところもあったように思います。まずはコロナに対応してというところが優先順位の一番だったというところは強いかなと思いま

す。その上で、教員が研修の機会をどれだけ確保できるかなということについては、まだまだ確保する機会をつくっていかないといけないなという思いは十分にあります。一方で、土曜日であるとか研究会等が最近はよく行われます。特に先進校の研究等について土曜日の参加ということが一方で上がってきたときに、この対応をどんなふうにするかなというのは非常に強く思うところがあります。

もう一方で、リモートの授業研というのがいろんなところであります。これについては、多くの学校のことは私は分かりませんけれども、私の学校では非常によく参加をして研修を深めていると。参加した教員に聞きますと、それはそれでよく分かるところはあるんだけれども、それでも実際に生の授業を見て、実際に対面で話を聞き、質問をし、ということで得られるところは熱心な教員ほど求めていますが、なかなかそこが今、時間のこと、そしてコロナのことで十分に確保はできていないなというのは、先ほどおっしゃったとおりの部分だろうなと思います。

もう一つは、若い先生が非常に増えてきています。この先生方は研修意欲を非常にもっています。そこに向けて機会をどれだけ与えることができるかなというのは課題であるというふうには認識をしています。

〇三木中学校長会長　中学校のほうですが、教員の連携組織力については、これは大きな課題であると認識しております。実際に昨年度１月、休校になったとき、このときは中学校の教員は時間がたっぷりありましたので、こんなこともできる、あんなこともできると研修であったり、それから教科会、各教科が集まっての話合いであったり分掌会であったり、かなりできたと思いますが、ただ日常的には実際には時間的になかなかつくれない現状があります。実際に学年会であるとか教科会、分掌会を開こうと思えば、今ですと日暮れが早いので、５時半ぐらいからはできます。ただ、５月であるとか６月であるとか７月、９月であるとか、こういった時期に会議をもとうと思えば、７時からの開始になります。今働き方改革で勤務時間の問題等もあります。いろんな問題があります。

そういった中で、要するに理由は部活動なわけですけれども、部活動がない曜日を設けて、この日を会議の日にするというふうなことを週に１回しか設けることができておりません。毎週水曜日ですけれども、この日はほとんどが会議の日ということになります。会議をもたないような水曜日もつくることも課題です。それぞれの教員が仕事をためておりますので、そこで一気にやるというふうな形で、中学校の現場ではまだまだ、じゃあ部活動をといっても部活動を楽しみに来ている生徒たちもいっぱいおりますので、これも短縮

といいますか、短くなかなかできない現状もあったりというふうな中で、これは中学校にとっては本当に大きな課題であるかなというふうに思っています。

そういった中で、どう連携を取っていくのかというふうな部分では、本当に質の高い中でしっかりと考えながら、工夫しながらやっていかないといけない問題かなと。もうご指摘のとおり、これは中学校にとっては大きな課題であるなというふうに思っているところです。

○市長　ありがとうございました。

河内さんから、コロナウイルスは全国同じじゃないかという話がありましたけど、岡山は緊急事態宣言とか、県の中でも半数の患者は岡山市で出ているので、より小・中学校は大変だったことはもう間違いないだろうと思います。だからといって、そのせいにするというのもまた問題だろうと思いますし、部活動の話もそうだと思いますけど、部活動の話は多分どこも同じかもしれませんけどね。そういう中で模索していって、１時間でも、ちょっとでも多くしていくということは、ぜひ校長会、教育委員会も考えていただければと思います。

片山さん、お願いできますか。

○片山教育委員　失礼します。どうもありがとうございました。私は無解答率が下がったというのは、とてもうれしいことだなというふうに思います。先ほどの理由を書けないということともやや関連するんですけれども、理由というのは自分なりの考えがきちんともてているかどうかということだと思います。もちろんなぜなのかという、その論理的な思考ということも大事かとは思うんですけれども、自分がどう思うかという、そして自分が考えたことを主張したいという相手がいるとか、そういった個の確立というのがすごく大事なんじゃないかなというふうに思いました。疑問をもつということに関しても、自分が主体となって課題に取り組むときに、自分なりに知りたいことがまずあるかとか、自分なりに考えたことを伝えたいことがあるかとか、人と関わる中での個がしっかりと確立するというか、大事に育っていくことというのが前提なのかなというふうに感じました。

そんな中で、いろいろコロナがあったにもかかわらず、全国の平均以上に育ってきているということがとってもありがたいなと思う一方で、この平均の中身というのが平均点の周りに多くの子どもたちがいるのか、それとも結構差があるのか。できてる子とできてない子の差があって中間の平均点なのか。それによって、また個別最適な学びの仕方とか課題の出し方というのは変わってくるのかなというふうに思っています。

先ほど教育長さんが個別最適な学びというのが今後の大きな課題になるとおっしゃったんですけれども、そのあたりの個に応じた課題の見極めとか、自分が主張するということは子どもたちの中ではもう序列というか、あの子が言うのは絶対だとか、自分なんかが言うと、みんながええっと言うとか、そういった他者から見られる自分意識というのも随分小学校の中学年以降、中学校もそうだと思いますけれども、出てくるので、そういった中でいろんな考えがあっていいんだ、あなたが考えたことはとても重要なことなんだという個人が自信をもって自分を語れるような集団だったり、そういったことも今後大事なのかな。だからこそ家庭も少人数、地域でも集団で関わらない、そうなると集団というのは学校が一番なので、その中で個が認められるということがそういった理由を言えることにもつながるし、自分が自信をもって物事に取り組むという、そんな姿になるのかなというふうなことをちょっと感じています。

そんな中で、これから個別最適な学びということにも関わって、岡山では先生方がコロナ禍につくってくださった課題に積極的に現場に取り組むということが100％だったという結果を教えていただいたんですけれども、それプラス、せっかく配っていただいた端末を今後個別最適な学びに関わって、どんなふうに活用していけるのか。そこだけにこだわるのではなくて、集団での学びと、それからそこである一定の水準をみんなでクリアする楽しみと、今度は個々の学習の到達度に合わせた個の学びがより深まったり広がったりするような、そういう課題設定が多様に織り混ざって、いろんなそれぞれの挑戦とかを繰り返しながら個が育っていくといいなというような印象をもちました。

以上です。

○市長　ありがとうございました。

今の片山さんの話の中で分布図がどうなっているのかという点について、西島さん分かりますか。

○西島　分布は、度数分布は全国とほぼ重なってますので、特段全国に比べて上位が多い、そうでない子どもが多いということはないとは思いますが、当然おっしゃったように、それぞれの課題というのがあるわけですので、分布以上の何かもう少し細かい分析を本来はしなきゃいけないかなというふうに思います。

○市長　では、石井さん、お願いいたします。

○石井教育委員　失礼します。先ほどからの理由を書くというところの問題については、私個人としては日頃会社の中で働いているんですけども、今会社の中でも社員それぞれが

自分で考えて行動しなければいけない要素がどんどんどんどん強まっている状況にあります。だけれども、その中でなかなかそれができないんですけれども、その理由については、私自身はこれまで指示や命令でずっと動いてきたこと、それからあれをしたら駄目、これをしたら駄目という、そういう要素が長いと、今日から、じゃあ自分で考えなさいと言われても、それはなかなかできないですし、イノベーションを起こしなさいと言われても、それはできることではないのかなというふうに思ってまして、小学生、中学生についてどうなのかというのは分からないんですけれども、授業以前の問題として、ふだんの生活の中、学校の生活、それから校則だとか家庭での生活の中で、そういう考える要素をしっかりつけていくというのが大事なんじゃないかなというふうに感じてます。

私自身としては、そことの全国との差というよりかは、基本的には全て全国的に全国の数字に近づいたり超えていったりしていっていると思うんですけども、一方で世界との差というのを内閣府の調査で子ども・若者白書というところで拝見すると、子どもの自己肯定感、あるいは将来に希望をもっている子ども、このあたりがもう20ポイント以上、ほかの先進国と比べて離れてますという、この差の大きさのほうが、この全国との差よりもよっぽど大きくて、これの大事さというのがどれほどあるのかとか、どういう意味があるのかなというのは、もっとよく考えないといけないと思うんですけども、将来に希望をもっている子どもの数がかなり少ないというのは、とっても悲しいし、そういうことは今５つの力を育んでいくということになってるんですけども、その力を育んでいった結果、将来に希望をもてる子どもたちを増やしていってほしいなというふうに感じてます。

あと、不登校のところについても、同じその内閣府の調査を見ると、子どもの自殺が増えてますよという、子どもの数が減っているのに自殺が増えてますと。それは相関関係があるものとして、子どもが居場所の数をどれだけたくさんもっているかというのが影響してますよというふうに分析がされていたので、そういったことも取り入れながら、これは文科省じゃなくて内閣府がやっているので、どういう関係性があるのかよく分からないんですけども、子どもがいろんなことで生きづらくなってないのかなという、勉強のことも含めて、一方で居場所をつくってあげるということも大事なんじゃないかなというふうに感じました。

以上です。

○市長　ありがとうございました。

今の石井さんの話の中で、将来の夢や目標をもっている子どもの数が結構低いという

話、この原因みたいなものは何か分かりますか。

○山本小学校長会長　なかなか難しい話かなとは思っています。自己肯定感を高めたいなというところで様々な取組をしています。学校の行事の中で子どもたちが協力して事を成し遂げるであるとか、そういった場面をいっぱいつくりたいなということで、そういった行事をくぐり抜けたときに子どもたちというのが達成感とともに自己肯定感を高めていっているなという実感はあります。

○市長　高まってきている。

○山本小学校長会長　はい。ただ、それが数値となって出てきていないということがありますので、それについては何かしら課題があるのかなとも思います。

これは一般論で語るのはちょっと危険かなと思うんですけれども、子どもたちの状況を見ていると、１人の子どもが非常に多くの期待をかけられて今育っているなと思います。こうなってほしい、ああなってほしいという思いが１人の子どもに４人ぐらいの大人からかかってきているんではないかなと思います、将来に向けて、こうあるべきだというふうなことも含めて。そうすると、子どもたちは随分頑張っていても、まだまだだというふうな評価が出てきていたりとか、この方向で頑張るんだというふうな方向づけが非常に厳しくされていたりとかということは、過去に比べると強くなってきているのではないかなという思いはあります。

これが調査に基づいた数値として上がってきているわけではないので、現場の肌感覚としては、そういったところが自己肯定感につながりにくい。もっと言えば、自己実現の場をどんなふうに保障してやれるかなというのが一方で我々にできることかなとは思っています。これは授業の中でももちろんできていて、私はこれはほかの学校では分かりませんけれども、私の学校では課題をどんなふうに子どもたちが自らのものとしてもつかというところは大事にしています。それに向けて、みんなが力を合わせて話し合いながら一定の結論を得るという、この活動自体は非常に子どもたちにとってはやり遂げた感があったり非常に値打ちを感じたりするということはあります。その中では根拠を話さない限りは折り合いがつきませんから、そういった学習活動は非常にできている学校もあるのかなというぐらいなところにとどまるかなと思っています。お答えになったかどうか分かりませんが……。

○三木中学校長会長　うちの本校の例なんですけれども、つい先日、中学校それから４小学校あります、中学校区に、それから幼稚園も含めて中学校区で研究主任が集まりまし

て、この全国の調査であったり岡山市のアセスであったり、そういった中からうちの学区の子どもたちの課題は何なのかというふうな、そういった話合いをしたものが今まとまってきているんですけれども、そういった中で自ら考えて取り組む子どもが少ない傾向があるなというふうなものが出てきました。じゃあ、この原因は何なんだろうというふうな中で、幼少期から大人を含めた親の手が多く入っている……。

○市長　親の何が。

○三木中学校長会長　親の手が、いっぱい手が入っている、今、山本校長先生が言われた部分と重なるんですが。

　そういった中で、失敗を恐れる気質や、やってもらえると信じているところがあると。つまり周りの大人にうまく頼っているところがあるのかなと。そういった大人が先回りすることで失敗させる経験が乏しいまま中学生になっているのではないかというふうなことを、子どもたちをずっと幼・小・中とそれぞれの職員が見てきて感じているところです。実際そうかなと。これが今うちの学区の課題で、うちだけじゃなくて、これは大なり小なりどこも同じかなというふうに私は思っていますが、じゃあこれが全く駄目なのかというと、全く消すわけにはいかない部分かなというふうに思っています。

　そしてさらに、子どもたちが失敗も含めて、挫折も含めながら、いろんな体験の中でどう育てていけたらいいかなというふうな部分で、幼・小・中それぞれを連携しながら、保護者や地域とも考えながら今後進めていく必要があるのかなというふうに感じているところです。そういった中で、先ほどもありました将来の希望であったり夢であったり目標であったり、こういったものも真剣に考えるというよりも、まあ、何とかなるかなというふうな、そういった甘えも実際に出てきているところがあるのかなと。周りの支えは大事ですので、支えをどう生かしていったらいいのかなというふうなことも含めながら、これから考えていかないといけないのかなというふうな結論が今、今といいますか、つい最近うちの学校では出たところです。

○市長　ありがとうございました。

　私からも質問なんですけど、西島さん、この理由が書けないというのが岡山市は全国平均に比べて悪いと言われましたよね。

○西島　はい。

○市長　どこの地域がいいんですか。

○西島　ほかの地域を細かく分析はしておりませんが、数字レベルではなく話レベルで、

現場からお伺いするレベルのお話になりますが、ＩＣＴの活用の中で、ほかの人がどういう答えをしているかというのが一目で見えるような仕組みがあるんですね。そうやって人のものを見て自分を振り返るということを繰り返してやっていくことで、ああ、理由ってこうやって考えるんだ、こうやって書くんだですとか、そういうふうな答え方といったら変ですけれども、そういったものを自然に学びながらできるようになっていくということはお伺いしますので……。

○市長　それは教育のシステムの差ということですね。

○西島　そうですね。まだ１人１台の活用が始まったばかりですが、もう10年近く前から１人１台でやってらっしゃる地域も中にはありますので、そういったところは、そういったほかの人との変な意味ではない比較、自分を振り返るための情報がたくさんあるというところで振り返りの大事さともつながるんですが、そういった活動をしてると理由をちゃんと書けるということは聞いたことがあります。

○市長　私は岡山に帰ってきて10年ぐらいなんですけど、今、石井さんが家庭内でもちゃんと身につけさせないといけない、そこが問題なんじゃないかと。私は、逆に親が問題なんじゃないかという気がするんですよね。だから、岡山は、もちろん石井さんのように大きな企業をやっているところというのは違うんですけども、日本全体から見ると、支店経済的な要素が強い。したがって、あまり理由を考えない。だから、先ほど言われた、指示で動いてるというところがあるんじゃないかと。

これは教育委員会でいつも来られている人がここにいっぱいおられますけども、文科省がこう言っている、何とか省がこう言っているというのが、この市役所の中でも多いんですよ。関係ないじゃないかと私なんか思うんですけどね。文科省がこういう理由でこう言っている、この理由が正しいかどうかというところを検証するということをあまりやらないところがある。何となく感じるところがあるでしょう。そういう大人も後天的にだんだんとそうなってくるところがあるので、私はこれを変えていくには、教育、先生しかいないんじゃないかと思っています。それはなかなかそんなに簡単にいく話じゃないけれども、このシステムの中で常に考えていく、理由を考えていく。そして、どなたかがおっしゃったストーリーをつくっていく。これがないと真の教育にはならないんじゃないかなという気がするんですよね。

家庭内でももちろんやっていただきたいということは事実だけど、そういう常に自分が言っているバックグラウンドは何なのか、なぜ言っているんだというところを常に念頭に

置きながら教育していただくというのが重要なんじゃないかなと。それで初めて選択をしながら、また挑戦も何度もできるような、そういったことが理由があって初めてできるんじゃないかと。そういうふうに私も思うんですけれども、それらについて毎日教えておられる先生方とか教育長、今の教育委員及び私の意見を踏まえてコメントをしていただければと思います。

○山本小学校長会長　ありがとうございます。全く同感です。教員は授業を本当に子どもたちが生き生きと学べるものにしたいと。じゃあ、その生き生きと学べるものというのはどこかなというふうに常に問うていると思います。一つは授業の課題、この課題が子どもたちの切実感であるとか必要感であるとか、そういったものに根差したものでないと、その後のエネルギーが生まれてきませんから、まずはこのスタートが大事だぞと。授業研究のまず一歩はそこかなと思います。そして、それに基づいて、じゃあどんな方法でそれを解決していくのか。教科学習の枠、それから総合的な学習の時間の枠で少し話が変わってくるかなと思うんですけれども、そこの解決方法について子どもたちが選ぶということができるのは総合的な学習の時間の枠かなと思っています。自由度が随分あるし、自分の責任でやらないといけない部分が多いということで。

教科学習については一定時間の中で解決まで行かないといけませんから、そのあたりを幾らか教師サイドが用意をしておいて、それでもその中で子どもたちが自分の発想を生かして学んでいく。その後、子どもたちが自分がやったことを他の子どもたちと交流しながら、より良いものは何だというふうなところで、さらにそこを詰めていける。そういった学習が展開されると、先ほど言ったような根拠が必ず話題になってくるだろうと。理由は何だという話にしかならないだろうと。それを目指して授業づくりを進めています。子どもたちの力はつきました。明らかにその力はついていると思います。ただ、これが全ての学校で行われているかどうかということについては、まだ十分に見えていないところがありますから、それをしていくのが一つ大事かなというふうに思います。

総合的な学習の時間では、さらにそれがダイナミックにできますので、これについては子どもたちの発想がさらに大きく広がっていきますし、先ほど探究という言葉が出ましたが、まさに探究的な学びを進めていくことになるというふうに私自身も思っていて、可能性がここにはあるなと。その中にＩＣＴの活用が入ってくるんだろうというふうにも思っています。教科のほうにも、もちろん入ってくるわけですけれども。個別最適な学びというのが先ほどから話題になりました。このＩＣＴが入ってきて、通常の学級の子どもたち

以上に、支援が必要な子どもたちにとって、これが非常に効果がありますし、使いやすくて役に立っているなという実感があります。このあたりは、さらに研究を進めていくことで個別最適な学びというのが進んでいくなということを実感しています。

○三木中学校長会長　私も今、市長さんが言われたのに全く同感です。子どもたちが伸び伸びと自分の意見をもって、考えをもって、それを発信できることがなかなか難しい原因に、先ほども言わさせていただいたんですが、やっぱり失敗を恐れるところがあるのかなと。なぜ恐れる必要があるのかなというふうな部分も含めてですが、砕いた言葉でいうと、いい子ちゃんのほうがいいよねというふうな、そういった風潮がどうしてもあるのかなと思います。

これは教員も同じかなと思います。職員会議で本当は自分はこう思うんだけれども、今それを発言したら全体の流れが止まってしまうかなとか、どう思われるかなというふうな、そういったところがあるのかなと。うちはありがたいことに、ずばっずばっと思っていることを言う教員もおります。職員会議が止まってしまったりとか校長の言うことに反対したりとか時々むっとするんですけれども、でも後で必ずありがとうと私は言います。多分ほかの先生たちの思っていることを、言いにくいことを代弁して言ってくれたんだろうと。だから、ありがとうと。これからも遠慮なしに、よろしくお願いするよというふうな、そういうふうな形で、教員も、ああ、何でも思ってることを失敗を恐れずにやればいいんだというふうな、そういった空気はつくっていく必要があるのかなと思います。

そういった教員が今度は子どもたちの前に立ったときに、どうしても教員も子どもたちにいいようにやらさせたいといいますか、うまく無難にというふうなところはどうしても見え隠れするのかなと思いますが、そこを乗り越えてやっていくというふうな、そういった一つ殻を破るような、そういったものは要るのかなと。もう今何か小ぢんまりとまとまって無難に収めようというふうな、そういったところが全体的にあって、それを打ち破いていく者は、何かのけものにされる風潮がどうしてもあるのかなというふうな、そういった心配もあります。

○市長　今私が中学校に行ったら、のけものになっちゃいますよ。教育長に話をしていただく前に、西島さん、長谷川さん、何かありましたらお願いします。

○西島　ありがとうございます。数字の上での全国との差を取り上げてしまいましたが、そんなに大きくはないというのが前提としてお考えいただければと思います。その中で特徴的なところで多くの設問に関連したのが理由に関することだということですので、岡山

市はすごく弱いということでもないというのは、ぜひご認識いただけたらと思います。

その上で理由に関しては、我々もこうやって資料を作ったりとか、いろんなことを考える中でも、全てのことに理由があるというふうに私は思っておりまして、作る上で、ここはどうしてこうしたんだとか、なぜ自分はここをこうしたんだというのは全部に理由を言えなきゃいけないはずなので、だからもう時間の関係はありますけども、ぜひなぜとか、どうしてという問い、たくさんいい発問を先生方同士で開発をされて、授業の中でたくさんそういった発問をしていただくといいなというふうに思いますし、もう私の子どもは小・中学校を卒業しましたが、子どもに対しても、そういう親としても、そういうことをちゃんと突きつけないような優しい感じでやっていくべきなんだなというふうに感じたところでございます。ありがとうございます。

○長谷川　失礼いたします。10年ぐらい全国の小学校、中学校さんを回らせていただいて、主体的・対話的な学びが一気に加速して、安心・安全の場をまずつくろうという先生方の試みをずっと間近で拝見してきました。それによって、今まで事実と意見が区別できなくて意見が言えなかった子も意見を言えるようになったりですとか、その訳はというのをその場で聞かれて訳が一つ言えるようになった、でももっと納得してもらうにはどんなことを言えばいいだろうかというような学びが広がってきているのはここ数年で、ぐっと変わってきたところではないかと思います。それが無解答率にも表れていますし、自分の意見が書けるようになったというところも大きな一つの変わったところではないかと思っております。

一方で、これからもっと伸ばしていきたいところは深い学びのところで、より何でこうなっているんだろう、何で三角形の公式はこうなんだろうというような学びを先生方も実践されようと実際されていらっしゃる先生も多く存じております。総合的な学習の時間で課題設定が一番難しいというお声をよく聞きます。情報収集をして発表するのはポスター発表なので、どんどんできるようになってきているけれども、自分が興味をもったことで、これを調べようというのがなかなか難しいというようなお声も聞いております。今後期待されるのは、そういった総合的な学習の時間や教科の中で探究的な学びがどんどん広がっていって、安心・安全な場の下で、もっと発言できて、そういった、なぜ、どうして、訳は、と私も保護者として子どもに言っていきたいと思いますけれども、そういったオープンクエスチョンで子どもたちに語りかけることが大事だと思います。

以上です。ありがとうございました。

○教育長　いろんな意見をいただいて本当にありがたいですけれども、私は実はこの理由とか自分の意見を上手に言えないとかという一つのその理由を考えてきたときに、今の子どもたちというのは実は実体験が非常に少なくなってきているんじゃないかなと。触るとか実際に見るとか聞くとか、そういった五感を使った体験が非常に少なくて、ともすればバーチャルなゲームとか、そういったものに時間を奪われている。友達とけんかをするのも意外と少ない。そんな何か体験が非常に乏しい子どもたちが少し増えているなというのを感じて、体験をいっぱい積むことで実は心の中や頭の中にいろんな理由をはめていっているんじゃないかなというのがあって、そこは何か学校で仕組んでいかないといけないなあというのも一つ思います。その体験にはもちろん読書もあると思うんですね。読書という体験も大きな、理由を考えられる一つの根拠になってくるのかなというのがあります。

それから、それと関係するんですけど、ゲームが全て悪いとは言わないんですけれど、人間関係の希薄さ、これは昔に比べると非常に希薄になっているなというのを感じます。個人は非常に尊重されているんだろうなと思うんだけれども、関わり合うとか、そういったものが、特に放課後、スポーツをしない子どもたちというのは本当に人間関係がつくりにくかったりとか上手につくれない。これは新採用の教員がなかなか子どもと人間関係をつくれなくて病んでいくとかというのが増えたりするのも大きな象徴的な出来事のような気がするんですね。こういったのを改善していかないと根本的な課題解決にならないのかなということをお話をずっと聞いていて思いました。ありがとうございました。

○市長　確かに教育長がおっしゃっているように、縦からいくと昔の我々に対する教育、我々が実体験をしていたもの、それとは随分変わってきている。そこも考えていかなければならないと思いますが、あとは横の問題というのは、同じ状況の中で子どもたちが育っていて、なぜこういう差が出てきているのかということも考えていかなければならないというように思うんですね。でも、隔世の感があるんですよ。最初、私が市長になって第１期目の菅野教育長と一緒にやった総合教育会議では、もう全体の学力が相当落ちていたし、かつ無解答率が岡山市はすごく高かったんですよね。それがほぼ並んで、今は、ちょっとぐらい上に行っているんじゃないかと。要するに、別に英才教育をやるわけではないが、子どもたちが自分で考えていく素地がここでも養われたんだということなんだろうと思うんですね。

だから、この素地が養われたと言いながらも、誰かおっしゃった深い学びというか、理由があって、現状があって、その現状を踏まえて、こうするということが、そこに必ず理

由が来るわけなんで、そこが書けないというところにまだちょっと問題があるんではないかと。そこは今まで教育委員会と先生、校長、教頭、各先生が非常に連携を深めていただいて、この状態をつくっていただいたんで、ぜひもう一歩進めていただいて、子どもたちのもっている能力を引き出していただければありがたいなと思います。

時間になりましたけれども、何か特にというのがあれば、ご発言をお願いいたしたいと思いますが。

よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　先週の金曜日、私と知事の対談がありました。その中で義務教育をめぐって議論になっています。我々の考え方と県の考え方が少し違っているようなところもあって、知事としては共同歩調を取って一緒に進められないかという問題意識を述べられているんですが、共同歩調を取るには考え方、哲学をお互いに合わせる必要があるだろうということで、知事のほうには、よろしければ我々のやっている総合教育会議に来ていただけないでしょうかと、私も県がやっている総合教育会議に出させていただいて我々で議論したことを申し上げたいと思うということで話ができました。

具体的にまだセットされていないわけでありますけれども、知事のほうに対しては時間調整でやらせていただきますと、逆に私のほうもお願いしますということを話をさせていただこうと思っていますので、そのあたり次の会議になるかどうかよく分かりませんけれども、そういう運びをやらせていただければと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

それでは、マイクを司会に移します。

○司会　ありがとうございました。

次回の会議につきましては、日程等、改めて通知させていただきます。

以上で令和３年度第２回総合教育会議を閉会します。本日はどうもお疲れさまでした。

午後４時55分　閉会